



mazda

マツダ株式会社

ZOOM-ZOOM



新型「マツダアテンザ」/  
東京モーターショー2007出品モデル

株主のみなさまへ

第142期 中間期 株主通信

平成19年4月1日～平成19年9月30日

## 株主のみなさまへ



代表取締役会長  
社長兼CEO(最高経営責任者)  
井巻 久一

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここにマツダ及びマツダグループの第142期中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)の業績ならびに通期業績見通しについてご報告申し上げます。

### 当中間期の業績

マツダグループは、4ヵ年の中期計画「マツダ アドバンスメント プラン」の順調なスタートをきりました。平成19年7月には、グローバル市場において優れた商品競争力を備えた新型「マツダデミオ」を国内市場及び欧州市場に発売し、同年9月には「マツダブレマシー」をマイナーチェンジして発売するなど、引き続き商品主導の戦略を展開しました。これらの結果、当中間期の連結売上高は、1兆6,562億円、営業利益は731億円、また、経常利益は576億円となりました。なお、株主の皆さまの日頃のご支援にお応えするため、中間配当金を1株当たり3円とさせていただきます。また、期末配当金は1株当たり3円とさせていただきます予定です。

### 〈生産体制〉

生産面では、7月の新潟県中越沖地震により一部の部品が調達できず、工場操業を停止する事態が生じましたが、関係各位のご協力により、操業停止による生産の遅れを取り戻すことができました。

また、国内の主要生産拠点である本社工場と防府工場の生産能力の増強を進めており、両工場を合わせた従来の年間生産能力を11%増加させ、年産99万6千台まで引き上げます。また海外では、4月に中国・南京市にあるフォード・モーター・カンパニー(以下、フォード)、長安汽車と当社の合弁エンジン製造会社にて量産を開始し、10月からは、同じく合弁の車両組立工場で新型「マツダ2(日本名マツダデミオ)」の量産を開始いたしました。さらに、フォードとの合弁生産会社であるオートアライアンス(タイランド)社に、Bカーセグメントの小型乗用車を生産する新乗用車工場を建設し、平成21年からマツダとフォードの小型乗用車生産開始の計画を発表いたしました。

### 〈販売体制〉

4月のベルギー・ルクセンブルク市場における販売統括拠点設立に続き、ポーランドにも直営販売統括拠点を設立する計画です。欧州市場では、過去5年間で欧州の成熟市場に販売統括拠点を積極的に開設したことにより、販売規模が約2倍に拡大しています。現在では欧州20ヵ国、19拠点で直営販売統括拠点を展開しており、欧州での販売台数全体の約9割が、これらの拠点による販売となっています。

### 〈研究開発〉

お客様にとってより魅力的な商品の開発を進める一方で、持続可能なクルマ社会の実現を目指した技術開発の長

期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」に基づく環境・安全技術の開発強化に引き続き取り組んでまいりました。ロータリーエンジン車発売40周年を迎えた今年、8月には、官公庁や民間企業へのリース販売を展開してきました世界初の水素ロータリーエンジン車「マツダRX-8ハイドロジェンRE」を経済産業省に納入いたしました。

また、9月には帝人株式会社、帝人ファイバー株式会社と共同で、植物由来100%の繊維からなる自動車内装用バイオファブリックを開発しました。さらに、ナノテクノロジーよりさらに微細な材料構造を制御する技術であるシングルナノテクノロジーを活用した、世界初の触媒材料構造を持つ自動車用触媒の開発に成功しました。これにより、白金やパラジウムなどの高価な貴金属の使用量を大幅に低減させることが可能となります。また、産学官による安全運転支援強化のため、広島地区で実施するITS(高度道路交通システム)を活用した公道実証実験に参加する予定です。

## 通期業績見通し

通期のグローバル小売台数は、136万台(前期比4.5%増)となる見通しです。市場別では、国内は総需要の低迷を受け25万2千台(前期比3.3%減)、北米では前期に導入した新型車の通年寄与などにより40万7千台(前期比7.1%増)、欧州では32万1千台(前期比5.6%増)、中国では10万5千台(前期比18.7%減)を見込んでおります。その他の地域では27万5千台(前期比20.7%増)を見込んでいます。また、連結業績は、売上高は前期比2.2%増の3兆3,200億円を見込んでいますが、営業利益は、台数・構成や為替円安効果、原材料価格の上昇を上回るコスト削減効果など改善の一方で、将来に向けた開発費や償却費の費用負担増を鑑み、前期比0.9%増の1,600億円、これに伴う売上高営業利益率は

	連結業績見通し	前期比	単独業績見通し	前期比
売上高	33,200億円	2.2%増	23,900億円	2.7%増
営業利益	1,600億円	0.9%増	1,060億円	19.4%増
経常利益	1,400億円	9.6%増	980億円	16.0%増
当期純利益	850億円	15.3%増	580億円	13.6%増

上記見通しには、今後の世界経済情勢、業界の動向、為替変動のリスクなどさまざまな不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があることをご了承ください。

前期並みの4.8%となる見通しです。また経常利益は前期比9.6%増の1,400億円、当期純利益は前期比15.3%増の850億円となる見通しです。なお、研究開発費は1,200億円となる見通しです。

今後も新中期計画「マツダ アドバンスメント プラン」のもと、「モノ造り革新」を中心とした構造改革を加速させ、目標達成に向けて着実に活動を進めてまいります。さらに、フォードとのシナジーの深化を図り、成長軌道を持続させながら、ブランド価値とビジネス効率の向上に積極的に取り組んでいきます。

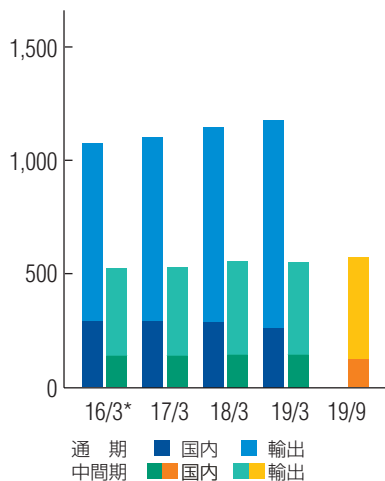
株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年11月

井 卷 久 一

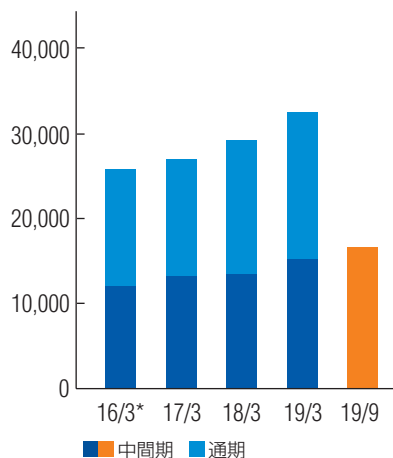
# 営業の概況

出荷台数(千台)



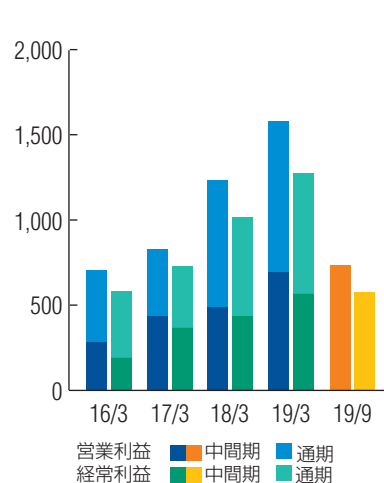
\*除く、海外子会社の決算期変更による影響。

売上高(億円)

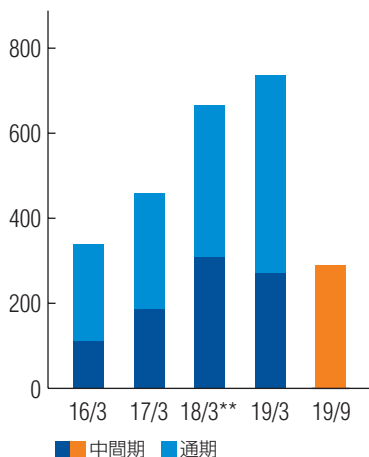


\*除く、海外子会社の決算期変更による影響。

営業利益・経常利益(億円)

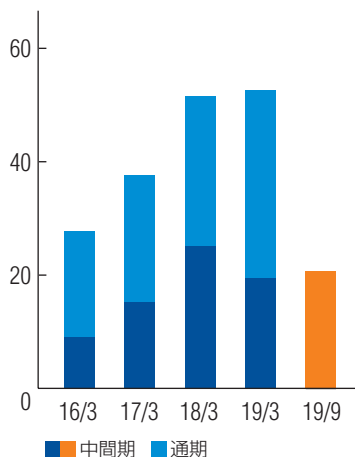


当期純利益(億円)

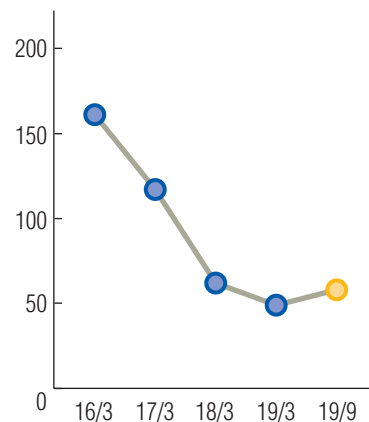


\*\*含む、厚生年金代行返上益ならびに減損損失による一時的な影響。

1株当たり当期純利益(円)



純有利子負債自己資本比率(%)



## 経営環境

当中間期のマツダグループを取り巻く経済環境は、国内では輸出の伸びと設備投資の増加に加え、個人消費も底堅く推移するなど、民需の増加が見受けられ、引き続き緩やかな拡大基調を維持しました。一方で、原油価格が過去最高値を更新するなど、国際商品市況高を背景に、物価は上昇しました。世界経済を見ると、米国のサブプライムローン問題による信用収縮懸念の影響により、国際金融市場には緊張が続いており、景気下振れリスクが高まっている状況です。

## 当中間期の業績

当中間期の連結売上高は、前年同期比1,348億円増の1兆6,562億円(前年同期比8.9%増)となりました。営業利益は、将来に向けた研究開発費や減価償却費などの固定費増加があったものの、為替の円安効果、原材料価格の上昇を上回るコスト削減効果もあり、前年同期比33億円増加の731億円(同4.8%増)となりました。また、経常利益は、前年同期比10億円増加の576億円(同1.8%増)となりました。中間純利益は、前年同期比19億円増加の291億円(同6.8%増)となりました。

当中間期のグローバル小売台数は前年同期比0.9%増の65万9千台となりました。主要市場における小売台数は、国内では、新型「マツダデミオ」を成功裡に導入したものの、総需要低迷の影響を受け、前年同期比5.8%減の12万3千台となりました。北米では、「マツダ3(日本名マツダアクセラ)」の息の長い人気に加え、前期の第4四半期に新たに投入した「マツダCX-9」の好調な販売により、前年同期比7.1%増の

21万3千台を達成しました。欧州では、ほぼ前年同期並みの15万3千台となりました。中国では従来マツダブランド車として販売していた「マツダ323(旧ファミリア)」、「マツダプレマシー(旧型)」の生産終了により、前年同期比32.6%減の4万1千台となりました。その他の市場では、「マツダ3」や「マツダCX-7」が販売を牽引して前年同期比17.9%増の12万9千台となりました。

## 財政状態

当中間期末の総資産は、リース資産の計上などにより前期末より273億円増加し1兆9,351億円となりました。有利子負債は、リース負債の計上などにより前期末より357億円増加し5,104億円となりました。なお負債合計は、前期末より59億円増加し1兆4,338億円となりました。

純資産は、前期末より215億円増加し、5,014億円となりました。なお自己資本比率は、前期末より1.0ポイント改善し、25.8%となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益543億円及び減価償却費327億円に対して法人税などの支払があったことなどにより403億円となりました。また、投資活動に使用したキャッシュ・フローは、設備投資など398億円を含む488億円となりました。これらの結果、連結フリーキャッシュ・フロー(営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計)は、85億円の不足となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済、及び社債の償還などにより、135億円の減少となりました。



## 「サステイナブル“Zoom-Zoom”～ 現在と未来のマツダショールーム」

ボディタイプ:セダン、スポーツ(5ドアハッチバック)、スポーツワゴンをラインアップ。



パワートレイン:  
MZR2.5L  
ガソリンエンジン

デザイン:スポーティさをより際立たせ、エモーショナルでプレミアムな味わいを表現。



安全性能:国内クラス初となるリアビークルモニタリングシステムをはじめ、プリクラッシュセーフティシステム、CF-Net\*などを導入

\*CF-Net(クロスファンクショナルネットワーク)空調やオーディオなどさまざまな装備を手元で集中コントロールすることができるシステム。

マツダは、2007年10月27日から11月11日まで千葉県「幕張メッセ」で開催された第40回東京モーターショー2007で、「サステイナブル“Zoom-Zoom”～現在と未来のマツダショールーム」をテーマに、新型「マツダアテンザ」など第2世代を迎えた“Zoom-Zoom”商品群と、今春発表した技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」を具現化したさまざまな将来技術を紹介し、好評を博しました。

## “Zoom-Zoom”のさらなる進化を具現化した 新型「マツダアテンザ」

来春発売予定の新型「マツダアテンザ」は、新中期計画を成功に導く役割を担う重要なモデルです。同時に、新型「マツダアテンザ」は、進化する“Zoom-Zoom”の方向性を示すモデルでもあります。環境・安全性能と走る喜びを高度に調和させ、デザイン、ダイナミック性能、パッケージング、

クラフトマンシップなど、すべての領域にわたってマツダらしさをより一層際立たせています。また、クラス最高レベルの空力性能を備えた高速ダイナミック性能と、それをサポートする安全装備、そして卓越したドライビングクオリティなど、最高の高速ロングツーリングを満喫する喜びをお客様に提供します。

## 「Nagare」デザインを洗練・進化させたデザイン コンセプトカー第4弾「マツダ大気」

「マツダ大気」は、マツダデザインの未来を探求する「Nagare」デザインの4作目となるコンセプトカーです。デザイン面では、「Nagare」のテーマをさらに進化させ、このシリーズの頂点を極める圧倒的な存在感と、地球を包む

大気をイメージさせる姿を表現しました。また、環境性能・動力性能を一新する次世代RENESES(ロータリーエンジン16X)を搭載し、空力特性などリアルな技術とデザインを融合させた、将来のFRスポーツモデルの可能性を表現しています。マツダは、持続可能な社会の実現に向けて、この「マツダ大気」によって次世代スポーツカーのひとつの方向性を提示しました。



## 新型「マツダブレマシーハイドロジェンREハイブリッド」

水素でもガソリンでも走行できるデュアルフューエルシステム採用の水素ロータリーエンジンを搭載した新型「マツダブレマシーハイドロジェンREハイブリッド」は、航続距離、走行性能、パッケージングなど実用性能を大幅に向上させました。水素ロータリーエンジンは、従来の縦置きから横置きに変更し、吸排気抵抗の軽減や燃焼改善を行い、幅広い領域で高出力を実現しています。水素ロータリーにマッチしたハイブリッドシステムは、高いエネルギー効率と優れたレスポンスを実現、低燃費ながらアクセルを踏むとエンジンとモーターが同期したダイレクト感のある力強い走りを可能にしています。2008年度のリース販売開始を目指し、引き続き開発に注力していきます。



SISS(スマートアイドルストップシステム)  
エンジン



## サステイナブル “Zoom-Zoom”の実現に 向けた次世代技術開発

マツダでは、燃費・エミッション性能と動力性能との高次元での両立を目指し、次世代ガソリンエンジン、次世代ディーゼルエンジン、次世代ロータリーエンジンの開発に取り組んでいます。2010年代にパワートレインの全ラインアップを刷新し、全商品に展開する予定です。“SISS(スマートアイドルストップシステム)”は、直噴システムを活用し、モーターを使わずにエンジンの再始動を可能としたアイドルストップ機構で、日本の10-15モードで約10%の燃費の向上が見込まれています。また、安全技術として、ドライバーの正しい認知・判断をサポートする「HMI ヒューマンマシンインターフェース」、操作しやすく危険回避が容易なダイナミック性能及び、車両と交通環境の協調による先進の運転技術支援システム「ITS インテリジェントトランスポートシステム」を柱とし、ドライバーとクルマ／社会が一体となった次世代のアクティブセーフティを追求しています。



## 国内外での生産能力拡大・・・生産領域でも「マツダアドバンスメントプラン」に基づき、グローバルなビジネス効率向上を目指して、着実に前進しています。

### 国内生産能力増強

本社(広島県)と防府(山口県)の2工場で生産能力拡大のための主要な工事がほぼ完了しました。この増強により、国内生産能力は、従来の生産能力を11%上回る年産99万6千台となります。

### 長安汽車集団とフォード社との中国合弁会社の南京車両工場が生産開始

近年、経済成長が目覚ましい中国で、4月のエンジン工場の量産開始に続き、合弁会社である長安フォードマツダ汽车有限公司(CFMA)が南京市に新車両工場を立ち上げ、2007年10月末より新型「マツダ2」の生産を開始しました。同工場はマツダの生産・製造技術を導入した最新鋭の一貫生産工場で、「マツダ アドバンスメント プラン」で掲げる「2010年度の世界販売160万台達成」に向けて重要な役割を担っていきます。

### フォード社との合弁生産会社オートアライアンス(タイランド)社の新乗用車工場建設計画を発表

新工場はCFMA同様にマツダの生産方式を取り入れた、プレスから最終組立に至る最新の乗用車一貫生産工場で、マツダ独自の環境にやさしいスリー・ウエット・オン塗装技術も採用し、2009年からマツダとフォードの小型乗用車の生産を開始する予定です。



## V型6気筒エンジンと直列4気筒エンジンの混流生産を実現

2007年5月、マツダはエンジン工場の機械加工工程で、業界初の新V型6気筒エンジンと直列4気筒エンジンの混流生産を開始しました。マツダがV型6気筒エンジンを生産するのは2003年8月以来約4年ぶりとなります。同V6エンジンは、米国で好評を博している2008年型「マツダCX-9」に搭載されています。

## マツダのさまざまな環境技術への取り組み

### 世界で初めて、植物由来100%の繊維からなる自動車内装用バイオファブリックを開発

当社は、帝人株式会社、帝人ファイバー株式会社と共同で、自動車内装表皮に使用できる品質と耐久性を持ち、石油資源を原料として全く含まない



植物由来100%の繊維を使用した自動車内装用バイオファブリックを世界で初めて開発しました。この素材は第40回東京モーターショー2007に参考出品した新型「プレマシーハイドロジェンREハイブリッド」のシートやドアトリムにも採用されています。

### シングルナノテクノロジーを活用した世界初の触媒材料構造を持つ自動車用触媒を開発

ナノテクノロジーよりさらに微細な材料構造を制御する「シングルナノテクノロジー」を活用した世界初の触媒材料構造により、白金やパラジウムなどの高価な貴金属の使用量を大幅に低減させることが可能な自動車用触媒を開発しました。



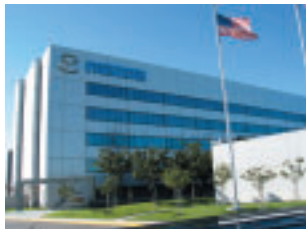
マツダモーターオブアメリカ, Inc.  
(マツダノースアメリカン  
オペレーションズ(MNAO))  
副社長  
是枝 秀輔

株主の皆さまへ、米国・カリフォルニアからマツダの北米事業についてご報告いたします。

## 北米事業概要

マツダの北米事業は、米国、カナダ、メキシコにブルトリコを加えた4市場からなります。2006年度の販売実績は38万台となり、着実な成長を遂げてきました。今年度もこのトレンドをしっかりと維持しており、上期の販売実績は対前年同期比で7%の成長を達成することができました。

市場別に見ますと、とりわけ2005年9月に参入したメキシコでは昨年度を大きく上回る成長を遂げています。イメージを統一した専売店の展開など、ブランドを着実に育てる戦略が功を奏していることに加え、マツダのブランドメッセージである“Zoom-Zoom”を体現した商品がメキシコのお客様に気に入っていただけたことが、大きな成功に繋がりました。



## 米国事業

マツダの米国事業は、2002年のマツダ6(マツダアテンザ)導入を機に、ブランド、商品ラインアップ、販売網の強化を柱とした成長戦略を展開してまいりました。

ブランド強化においては、“Zoom-Zoom”発祥の地として既に浸透しつつあったマツダのブランドイメージを、一貫したブランドコミュニケーションの継続により、さらに向上させました。

商品面では、マツダ6以降、マツダ3(マツダアクセラ)やマツダCX-7並びにマツダCX-9などの新商品を導入し、今後の成長の柱となる主力車種を揃えることができました。マツダ3は販売台数が年間10万台を超えるヒット車となり、マツダCX-7、マツダCX-9も幅広いお客様の支持をいただき、導入以来順調に販売台数を伸ばしています。さらに10月にはマツダCX-9が米国のメジャー自動車専門誌『モーター・トレンド』の2008年度SUVオブ・ザ・イヤー賞を受賞し、さらなる飛躍を期待しています。

販売網の強化も計画通り進んでいます。マツダ車のみを販売する専売店の比率を全体の5割以上に引き上げました。また、ブランド戦略に沿った次世代店舗も積極的に展開しており、将来の成長のための基礎固めができたと考えております。

マツダはこれからも北米市場で、ブランド、商品及び販売網の強化を着実に実行し、お客様満足度の向上及び強固な顧客基盤の構築を実現することで、さらなる成長を目指してまいります。株主の皆さまには今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 「株主さま工場見学会」のご案内

前回、大変ご好評をいただき、アンケートでもご希望が多数ありました「株主さま工場見学会」を、今年度も開催させていただきます。詳細については、以下の通りご案内させていただきます。

今回は**マツダ防府工場(山口県)**を**50組100名様**にご見学いただけます。また、ご要望にお応えして、株主様1名につき同伴者1名様(ご家族・ご友人など)までと一緒に見学いただけます。

- **見学日時(予定)**:平成20年(2008年)3月20日(木)午前、または午後(いずれか半日)
- **見学場所**:マツダ防府工場 山口県防府市西浦888番地の1(西浦地区など)
- **主要生産車種**:マツダアクセラ、マツダアテンザ
- **集合場所**:JR山陽本線・防府駅(お車でお越しの株主様は直接、防府工場・西浦地区へおいでください)  
・当日のご集合場所までの交通費はご参加者のご負担とさせていただきますので、ご了承ください。
- **人数**:50組100名様(株主ご本人様と同伴者1名様)  
(ご応募多数の場合には、誠に勝手ながら抽選とさせていただきます。ご参加いただく株主様には後日、詳細をご連絡いたします。)
- **お申し込み方法**:ハガキに、株主様、及び同伴者様の「郵便番号」「ご住所」「お名前」「電話番号(携帯電話をお持ちの場合は携帯電話の番号もお知らせください)」「同伴者様とのご関係(株主様からみて)」をご記入の上、以下の宛先までお送りください。

### ● 宛先

〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号  
マツダ株式会社 財務本部 IR室 「株主さま工場見学会」係  
電話:082-287-4114(ご不明な点はこちらまでお問合せください。)

### ● 締切:平成20年(2008年)1月31日(木)到着分まで

※1 見学会の日程は都合により変更する可能性がありますので、ご了承ください。

※2 ご応募に伴いお預かりした株主様ならびに同伴者様の個人情報につきましては、本見学会の実施以外の目的では一切利用いたしません。



## 主要商品ラインアップ

### ブランドメッセージ“Zoom-Zoom”(ズーム・ズーム) *ZOOM-ZOOM*

お客様との感情的な結びつきを強化し優れたブランドを構築していくため、マツダは、ブランドDNAを定義し「人格」と「商品」の2つの属性に分けて規定しました。この、マツダブランドDNAを端的に表現するメッセージが“Zoom-Zoom”(ズーム・ズーム:子供の時に感じた動くことへの感動)です。“Zoom-Zoom”、それは英語で「プープ!」を意味するコドモ言葉です。創造性と革新性で子供の時に感じた動くことへの感動を持ち続ける人々に「心ときめくドライビング体験」を提供していきましょうという思いがこめられています。

#### マツダブランドDNA

##### 人格

- センスの良い
- 創意に富む
- はつらつとした

##### 商品

- 際立つデザイン
- 抜群の機能性
- 反応の優れたハンドリングと走行性能

#### MAZDA アテンザ



新型「マツダアテンザ」/東京モーターショー出品モデル

来春に国内で発売予定の新型アテンザ。環境・安全性能の一層の高度化とともに、デザイン、ダイナミック性能、パッケージング、クラフトマンシップなどすべての領域にわたってマツダらしさをより一層際立たせました。クルマとの一体感を楽しめる「リアリティ」を追求したダイナミック性能と、それをサポートする安全装備、そして卓越したドライビングクオリティなどに支えられた最高の高速ロングツーリングを満喫する喜びを提供します。  
(海外市場での車種名:Mazda6)

#### MAZDA デミオ



2007年7月の発売以来、好評を博している新型デミオは、見ただけで乗りたくなる個性的なデザインと、日常での使い勝手を高めるパッケージ・機能性を備えています。そして、全てのマツダのクルマに共通する“Zoom-Zoom”な走りの楽しさを引き継ぎながら、クラストップレベルの燃費性能、安全性・快適性の高い次元でのバランスを実現しました。  
(海外市場での車種名:Mazda2)

#### MAZDA ベリーサ



丹念な造り込みと上質感漂うスタイリッシュなエクステリアデザイン。そしてデザイン性とディテールにこだわったインテリア。コンパクトカーが知らなかった上質を実現したコンパクトカーです。また、マツダのDNAを継承したゆとりある走りも実現しています。

#### MAZDA MPV



豊かなトルクが生む加速性能と低燃費を始めとする環境性能を両立させたDISIターボエンジンを搭載。高速域でも信頼できる正確なハンドリングと、全席にゆとりを感じる空間パッケージ。乗る人すべてがくつろげる、MPVは広さの質が違います。  
(海外市場での車種名:Mazda8)

**MAZDA**  
**プレマシー**


2007年9月にスタイルも一新し、さらに進化しました。シャープに磨かれたスタイリングと、機能的で洗練されたインテリア。DISIエンジンと5速オートマチックが実現させる爽快なドライビングフィール。6人乗りにも7人乗りにも使える「6+One」の新発想空間と便利な両側スライドドアが家族のときめきをぐんと加速させてくれます。

(海外市場での車種名:Mazda5)

**MAZDA**  
**アクセラ**


人々の期待を超えるスポーツコンパクトを目指し、世界各国で数々の栄えある賞に輝いているアクセラ。誰もがワクワクする力強く心地よい走り、躍動感を研ぎ澄ませたスタイリング。2.3L DISIターボエンジンを搭載したハイパフォーマンスコンパクト、マツダスピードアクセラも好評です。

(海外市場での車種名:Mazda3)

**MAZDA**  
**CX-7**


マツダのスポーツカーのDNAを受け継いだクロスオーバースポーツ。MZR 2.3L DISIターボエンジンを搭載し、ダイナミックなスポーツドライビングを可能にしました。都会的で先駆的なスタイリング、高品質でシックな室内空間を提供しています。

**MAZDA**  
**ロードスター**


「人馬一体」の走りと「Lots of Fun」を継承しながら進化し続ける2人乗りライトウェイトオープンスポーツカー。2007年10月には、ブラック本革シートやBBS社製アルミホイールなどの上級装備を採用した特別仕様車「Prestige Edition(プレステージエディション)」を発売しました。

(海外市場での車種名:Mazda MX-5 Miata/Mazda MX-5)

**MAZDA**  
**RX-8**


運転する楽しさという基本性能を徹底追求し、4ドア4シータースポーツというまったく新しいコンセプトを、妥協なく高い次元で具現化しました。ロータリーエンジン「RENESIS(レネシス)」を搭載。ロータリーエンジンがかなえた新しいときめきを体感できる比類なきスポーツカーです。マツダのスポーツカーDNAとチャレンジスピリットが、クルマを愛する者の夢を実現しました。



# 連結決算の概要

## 連結貸借対照表

(単位: 億円)

	当中間期末 平成19年9月30日現在	前期末 平成19年3月31日現在	前中間期末 平成18年9月30日現在
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>8,276</b>	<b>8,559</b>	<b>7,474</b>
現金及び預金	1,169	1,336	1,055
受取手形及び売掛金	1,853	1,730	1,545
有価証券	1,060	1,140	570
たな卸資産	2,652	2,824	2,873
繰延税金資産	906	972	911
その他	667	586	553
貸倒引当金	△32	△28	△34
<b>固定資産</b>	<b>11,075</b>	<b>10,518</b>	<b>10,243</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>8,951</b>	<b>8,572</b>	<b>8,364</b>
建物及び構築物	1,506	1,497	1,464
機械装置及び運搬具	2,102	1,925	1,839
工具器具備品	243	253	248
土地	4,429	4,429	4,432
リース資産	375	-	-
建設仮勘定	293	466	381
その他	2	2	1
<b>無形固定資産</b>	<b>342</b>	<b>289</b>	<b>258</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,782</b>	<b>1,658</b>	<b>1,620</b>
投資有価証券	1,084	988	924
長期貸付金	60	61	62
繰延税金資産	509	484	511
その他	168	164	201
貸倒引当金	△34	△33	△72
投資評価引当金	△6	△6	△6
<b>資産合計</b>	<b>19,351</b>	<b>19,078</b>	<b>17,716</b>

	当中間期末 平成19年9月30日現在	前期末 平成19年3月31日現在	前中間期末 平成18年9月30日現在
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>8,434</b>	<b>8,652</b>	<b>8,443</b>
支払手形及び買掛金	2,892	3,006	2,860
短期借入金	866	703	877
一年以内返済予定長期借入金	414	422	408
一年以内償還予定社債	-	202	202
一年以内償還予定新株予約権付社債	-	11	29
リース債務	183	-	-
未払金	886	978	1,149
未払費用	2,067	2,194	1,961
未払法人税等	183	264	158
製品保証引当金	455	426	335
その他	487	448	463
<b>固定負債</b>	<b>5,904</b>	<b>5,626</b>	<b>5,024</b>
社債	850	850	450
長期借入金	2,551	2,558	2,292
リース債務	240	-	-
再評価に係る繰延税金負債	938	938	937
退職給付引当金	1,055	1,116	1,194
役員退職慰労引当金	-	15	14
その他	270	150	138
<b>負債合計</b>	<b>14,338</b>	<b>14,279</b>	<b>13,467</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>	<b>3,880</b>	<b>3,696</b>	<b>3,219</b>
資本金	1,501	1,495	1,486
資本剰余金	1,339	1,334	1,326
利益剰余金	1,088	900	442
自己株式	△47	△33	△35
<b>評価・換算差額等</b>	<b>1,116</b>	<b>1,038</b>	<b>930</b>
新株予約権	1	1	0
少数株主持分	16	64	99
<b>純資産合計</b>	<b>5,014</b>	<b>4,799</b>	<b>4,249</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>19,351</b>	<b>19,078</b>	<b>17,716</b>

※ 1 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

2 当中間期末より譲渡性預金を有価証券として取り扱うことに伴い、前期末及び前中間期末の現金及び預金に含まれている譲渡性預金を有価証券へ振り替えて表示しております。

## 連結損益計算書

(単位:億円)

	当中間期	前中間期	前期
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	16,562	15,214	32,475
売上原価	11,750	10,957	23,226
売上総利益	4,812	4,257	9,248
販売費及び一般管理費	4,081	3,560	7,663
営業利益	731	698	1,585
営業外収益	86	81	146
営業外費用	241	213	454
経常利益	576	566	1,278
特別利益	2	11	14
特別損失	36	53	108
税金等調整前中間(当期)純利益	543	524	1,185
法人税等	246	241	430
少数株主利益	6	11	17
中間(当期)純利益	291	272	737

※記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	当中間期	前中間期	前期
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	403	299	1,164
投資活動による キャッシュ・フロー	△488	△381	△954
財務活動による キャッシュ・フロー	△135	△385	93
現金及び現金同等物に 係る換算差額	23	6	35
現金及び現金同等物の 増加額(△減少額)	△196	△462	338
現金及び現金同等物の 期首残高	2,425	2,087	2,087
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	2,229	1,625	2,425

※記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

## 連結株主資本等変動計算書 当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位:億円)

	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
平成19年3月31日残高	1,495	1,334	900	△33	3,696	1,038	1	64	4,799
当中間期中の変動額									
新株の発行	6	6			11				11
剰余金の配当			△84		△84				△84
海外子会社解釈指針第48号初年度適用調整額			△19		△19				△19
中間純利益			291		291				291
自己株式の取得				△17	△17				△17
自己株式の処分		△1		4	3				3
土地再評価差額金の取崩			0		0				0
株主資本以外の項目の当中間期中の変動額(純額)						78	1	△48	31
当中間期中の変動額合計	6	5	187	△13	184	78	1	△48	215
平成19年9月30日残高	1,501	1,339	1,088	△47	3,880	1,116	1	16	5,014

※記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

# 単独決算の概要

## 貸借対照表

(単位:億円)

	当中間期末 平成19年9月30日現在	前期末 平成19年3月31日現在	前中間期末 平成18年9月30日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	5,315	5,469	4,456
固定資産	9,918	9,497	9,320
有形固定資産	6,834	6,477	6,312
無形固定資産	186	182	172
投資その他の資産	2,899	2,838	2,835
資産合計	15,234	14,967	13,776
<b>負債の部</b>			
流動負債	4,628	4,636	4,428
固定負債	5,401	5,234	4,527
負債合計	10,029	9,870	8,955
<b>純資産の部</b>			
株主資本	3,876	3,735	3,487
資本金	1,501	1,495	1,486
資本剰余金	1,339	1,334	1,326
利益剰余金	1,083	940	709
自己株式	△47	△33	△35
評価・換算差額等	1,328	1,361	1,334
新株予約権	1	1	0
純資産合計	5,205	5,097	4,821
負債及び純資産合計	15,234	14,967	13,776

※記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

## 損益計算書

(単位:億円)

	当中間期 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	前中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前期 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	11,399	11,030	23,271
売上原価	9,333	9,123	19,259
売上総利益	2,066	1,908	4,012
販売費及び一般管理費	1,674	1,476	3,124
営業利益	392	431	888
営業外収益	102	116	236
営業外費用	167	134	280
経常利益	327	413	845
特別利益	0	0	1
特別損失	29	37	98
税引前中間(当期)純利益	298	376	748
中間(当期)純利益	227	273	511

※記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

## 株主資本等変動計算書 当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位:億円)

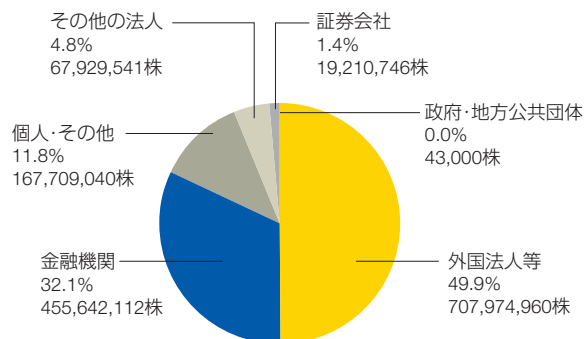
	株主資本					株主資本合計	評価・換算差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		資本準備金	その他資本剰余金	その他利益剰余金					
平成19年3月31日残高	1,495	594	740	940	△33	3,735	1,361	1	5,097
当中間期中の変動額									
新株の発行	6	6				11			11
剰余金の配当				△84		△84			△84
土地再評価差額金の取崩				0		0			0
中間純利益				227		227			227
自己株式の取得					△17	△17			△17
自己株式の処分			△1		4	3			3
株主資本以外の項目の当中間期中の変動額(純額)							△33	1	△32
当中間期中の変動額合計	6	6	△1	143	△13	140	△33	1	108
平成19年9月30日残高	1,501	600	739	1,083	△47	3,876	1,328	1	5,205

※記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

# 株式の状況 (平成19年9月30日現在)

発行可能株式総数 3,000,000,000株  
 発行済株式総数 1,418,509,399株  
 株主数 63,945名  
 (前期末比1,740名増加)

## 所有者別状況

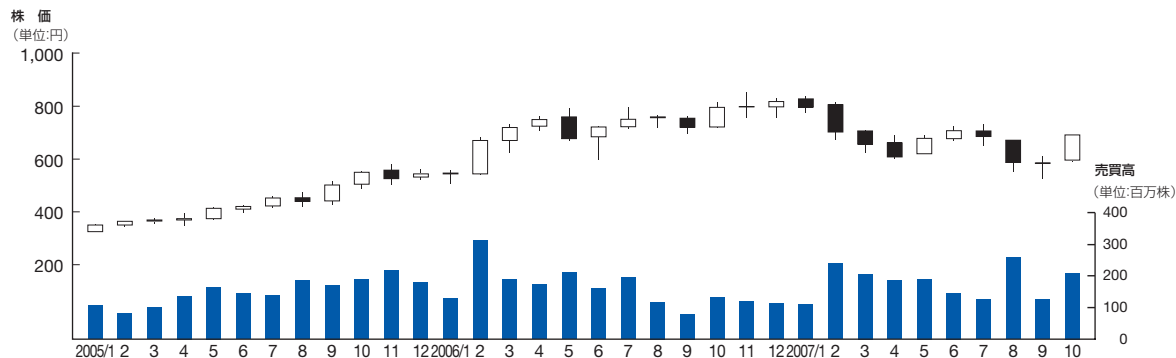


## 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
フォード モーター カンパニー	473,535	33.6
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	70,714	5.0
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	66,408	4.7
東京海上日動火災保険株式会社	40,410	2.9
株式会社三井住友銀行	37,624	2.7
三井住友海上火災保険株式会社	32,483	2.3
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	21,184	1.5
株式会社損害保険ジャパン	20,210	1.4
住友信託銀行株式会社(信託B口)	16,435	1.2
日本生命保険相互会社	15,553	1.1

(注)出資比率は、自己株式9,390,235株を控除して計算しています。

## 株価及び売買高の推移 (東京証券取引所)



# 会社概要／株主メモ

## 会社概要 (平成19年9月30日現在)

商号	マツダ株式会社
設立	大正9年1月30日
資本金	150,068,000,602円
従業員数	20,732名
主要な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売等
本社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号 電話(082)282-1111
東京本社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町1丁目1番7号 電話(03)3508-5031
大阪支社	〒531-6008 大阪市北区大淀中1丁目1番88-800号 電話(06)6440-5811
ホームページURL	<a href="http://www.mazda.co.jp/">http://www.mazda.co.jp/</a>

## 取締役及び監査役 (平成19年9月30日現在)

代表取締役	井巻 久一	監査役(常勤)	山本 順一
代表取締役	ロバート・ジェイ・グラツィアノ	監査役(常勤)	若松 重喜
代表取締役	山内 孝	監査役	小松 健一
代表取締役	デービッド・イー・フリードマン	監査役	坂井 一郎
取締役	ダニエル・ティエー・モリス	監査役	赤岡 功
取締役	長谷川 謙一		
取締役	尾崎 清		
取締役	金井 誠太		
取締役	山木 勝治		

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
基準日	毎年3月31日 (定時株主総会において権利を行使すべき株主の確定日) そのほか必要がある場合は、あらかじめ公告します。
公告掲載新聞	中国新聞及び日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 住所変更等用紙のご請求 ☎ 0120-175-417 その他のご照会 ☎ 0120-176-417
・ 郵便物送付先	
・ 電話お問合せ先	
・ ホームページURL	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>
同取次所	住友信託銀行株式会社全国各支店
単元株式数	1,000株
証券コード	7261



# 株主のみなさまへのお知らせ

## 「株主通信」アンケート結果ご報告

前回(第141期=平成19年3月期)の「株主通信」でお願いしましたアンケート調査に、多数の方々にご協力をいただき誠にありがとうございました。

貴重なご意見・ご回答を真摯に受け止め、今後の「株主通信」の編集やIR活動に活かしていく所存です。

アンケート結果から、以下の項目についてご報告させていただきます。(ご回答が複数の場合、全てのご回答合計を100%として算出しております)

### 当社の株式について

#### 1. 購入動機(複数回答可)



#### 2. 今後の保有方針



### 「株主通信」について

#### 「株主通信」で興味を持たれた記事(複数回答可)



### その他、頂戴したご意見の一部をご紹介します。

- 株主向け工場見学会は今後も続けて欲しい。機会があれば参加したい。
- ロードスターのような個人的な商品を、今後も作り続けて欲しい。
- (株主通信で)カタカナや横文字の表現が多く、わかりにくい箇所があった。
- 関東や関西での会社説明会実施を検討して欲しい。

## マツダ公式Webサイト「株主・投資家情報」について

### IRサイト「株主・投資家情報」をご活用ください!

最新のIRニュースはRSS配信でもお届けしています。

ご登録いただいたメールアドレスに更新情報を配信します。

個人投資家の皆様に、当社をより深くご理解いただくためのページもご用意しています。

<http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/>  
社長メッセージや決算情報、プレゼンテーション資料などさまざまな情報を掲載しています。

IRニュースメールに是非ご登録ください。





**mazda**



**R100**  
古紙配合率100%再生紙を使用

 **PRINTED WITH  
SOY INK™**  
このカタログは環境にやさしい大豆インキを  
使用しています